

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2015年3月期 第1四半期 連結決算概況

2014年8月7日
オリンパス株式会社
取締役専務執行役員
グループ経営統括室長
竹内 康雄

オリンパスの竹内です。

それでは、この第1四半期の決算概況についてご説明申し上げます。

2015年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

まず、連結業績についてご説明いたします。

2015年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

◆売上高は前年同期比 5%増、各利益項目は大幅増益

◆当期純利益は第1四半期として過去最高益

(単位：億円)	2014年3月期1Q	2015年3月期1Q	増減額	前年同期比
売上高	1,592	1,670	+78	+5%
販管費 (販管費率)	859 (54.0%)	913 (54.7%)	+54 (+0.7pt)	+6%
営業利益 (営業利益率)	82 (5.1%)	151 (9.0%)	+69 (+3.9pt)	+84%
経常利益 (経常利益率)	24 (1.5%)	112 (6.7%)	+88 (+5.2pt)	+365%
当期純損益 (当期純利益率)	△18 (-)	81 (4.9%)	+100 (-)	-
円/US\$	99円	102円	3円 (円安)	
円/Euro	129円	140円	11円 (円安)	
売上高への影響額	-	+63億円		
営業利益への影響額	-	+39億円		

3

こちらは、2015年3月期第1四半期の連結実績です。

売上高は、前年同期比 5%増の1,670億円、営業利益は、84%増の151億円、経常利益は、約4.7倍の112億円、当期純利益は、前年同期の18億円の損失から大きく改善し、第1四半期として過去最高益となる81億円の黒字となりました。

主力の医療事業が大変好調で連結営業利益を押し上げたほか、有利子負債を圧縮し、営業外収支を大幅に減少させたこと等により、各利益で大幅な増益を達成することが出来ました。

2015年3月期 第1四半期実績 ②セグメント別概況

- ◆医療事業は売上高・営業利益が第1四半期として過去最高を更新し、全社業績を牽引
- ◆その他事業は、バイオリジクス事業の撤退により黒字化

(単位：億円)		2014年3月期1Q	2015年3月期1Q	増減額	前年同期比
医療	売上高	1,079	1,209	+130	+12%
	営業利益	185	242	+57	+31%
科学 ^(※)	売上高	199	211	+11	+6%
	営業利益	△10	△3	+7	-
映像	売上高	250	198	△51	△21%
	営業利益	△6	△22	△16	-
その他	売上高	64	52	△12	△19%
	営業利益	△14	3	+17	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△73	△70	+3	-
連結合計	売上高	1,592	1,670	+78	+5%
	営業利益	82	151	+69	+84%

(※) 「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更

4

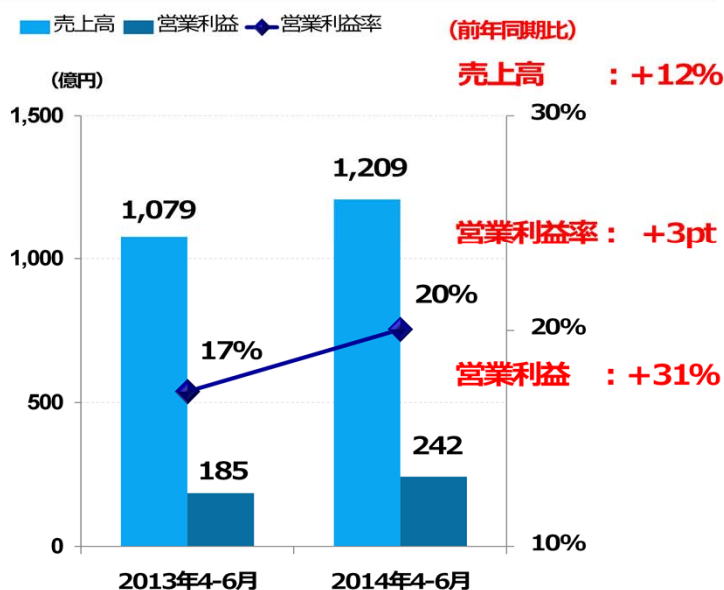
セグメント別の状況です。

ご覧の通り、医療事業が全社業績を大きく牽引しています。各セグメントの詳細は後ほどご説明しますが、医療事業は売上高、営業利益共に第1四半期として過去最高となりました。

また、「その他」セグメントも、前期にバイオリジクス事業を撤退したことで、連結営業利益改善に大きく寄与しています。

2015年3月期 第1四半期実績 ③医療事業

1Q (4-6月)



トピックス

- ◆ 主力の消化器内視鏡、エネルギーデバイス、処置具等の販売好調により、第1四半期としては過去最高の売上高、営業利益を計上
- ◆ 要員強化 (販売力強化)
 - 主要拠点 (日欧米中) における年間 1,000名の増員目標に対して、約25%の進捗 (うち、セールスは欧米を中心に約150名増)
- ◆ 販売促進費・研究開発費
 - 第2四半期以降に本格投下予定

5

こちらは、医療事業です。

売上高は、前年同期比12%増の1,209億円、営業利益は31%増の242億円、営業利益率も3ポイント改善し約20%となりました。

主力の消化器内視鏡ですが、国内は消費税増税後の反動もほとんどなく、大変好調だった前年並みの売上を確保しました。一方、北米、欧州、中国など海外主要マーケットでは主力のエクセラスリー等の販売が好調に推移し、消化器内視鏡分野全体で14.3%増と2桁の増収となりました。

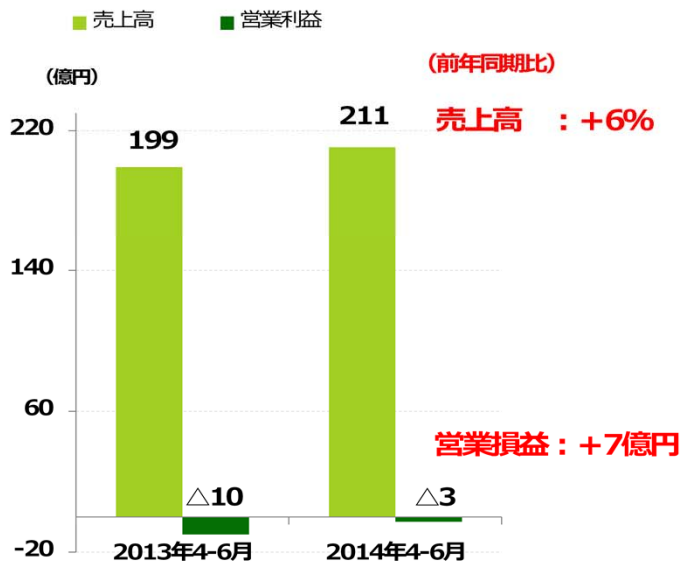
外科分野は、注力するエネルギーデバイスのサンダービートが、国内で大きく販売を伸ばしました。外科分野全体では8.5%の増収でしたが、その内、エネルギーデバイスは20%を超える成長となりました。

処置具分野は、海外の販売体制強化の効果が出始めており、海外マーケットを中心に11.2%の増収となりました。

尚、今期の重点施策である戦略投資の内、要員強化は予定通り進んでいます。年間1,000名規模の増加目標に対し、25%程度進捗し、250名規模で人員が増加しています。また、その内、セールスは欧米を中心に約150名増加しています。

2015年3月期 第1四半期実績 ④科学事業 (※)

1Q (4-6月)



トピックス

- ◆ 海外を中心に好調な非破壊検査分野、生物顕微鏡分野が牽引し、増収を確保
- ◆ 顧客群別戦略に合わせた機能統合
 - 米州、アジア地域で、先行的にライフ分野（顕微鏡）、産業分野のセールス機能等を統合

(※) 「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更 6

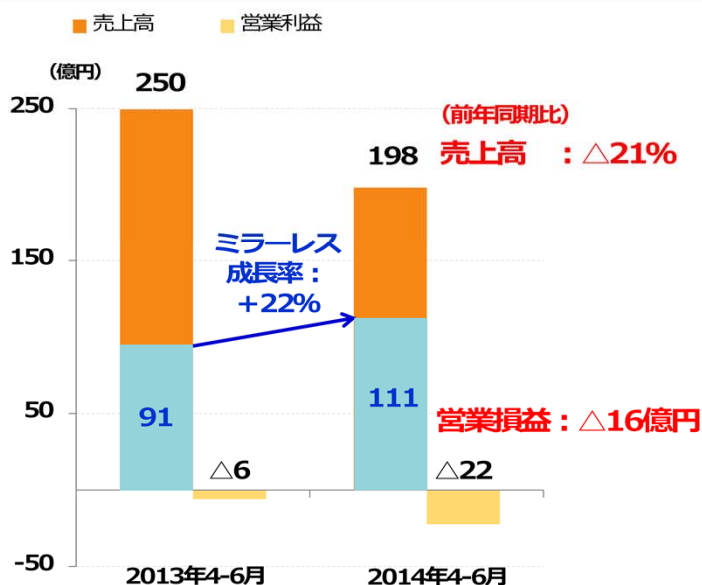
科学事業です。

売上高は、前年同期比6%増の211億円、営業利益は7億円改善し、3億円の営業損失となりました。

国内では消費税増税後の反動減の影響がございましたが、海外を中心に非破壊検査分野、生物顕微鏡分野で政府予算や民間の投資が徐々に回復し、増収に寄与いたしました。

2015年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業- (1)

1Q (4-6月)



トピックス

【コンパクト】

- ◆ リスク極小化、高付加価値モデルへの集中で販売台数圧縮 (前年同期比78%減の20万台)

【ミラーレス】

- ◆ 前年同期比 22%増収
- ◆ OM-Dシリーズにより欧米市場の販売拡大
欧州：約70%増収、米州：約10%増収
- ◆ 消費税増税の影響による日本市場の減速、PENシリーズの低迷
- ◆ ミラーレスへの販促投資継続

映像事業です。

売上高は、前年同期比21%減の198億円、営業損失は22億円の損失となりました。

売上高の減少は、主に、リスク極小化を進めるコンパクトカメラの大幅な台数圧縮によるものです。コンパクトカメラの販売台数は、高付加価値モデルへ集中したことで、前年同期比78%減の約20万台でした。

ミラーレスについては、主力のOM-Dシリーズ、E-M10が好調な販売となり金額ベースで22%増の111億円、販売台数は約11万台となりました。欧米市場では、ミラーレスの販売拡大に向けた構造転換の成果が出始め、欧州では約70%、米州では約10%それぞれ増収となりました。一方、ミラーレスの売上高は、当初の計画に対しては未達となりました。これは主に、国内で消費税増税後の反動減があったこと、加えてPENシリーズが、この第1四半期では新製品がなく低迷したことが要因です。

また、OM-Dシリーズを中心にミラーレスへの販促、広告投資等を継続したことで、前年同期比で営業損失が拡大しました。

2015年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業- (2)

1Q (4-6月) の前年同期比・差異

(億円)	2013年 4-6月	2014年 4-6月	増減	
売上高	250	198	△51	売上高減少 コンパクトカメラの販売減をデジタル一眼で補えず、前年同期比減収
デジタル一眼	91	111	+20	
コンパクトカメラ	126	51	△75	
その他	33	37	+4	
売上総利益	116	88	△28	粗利減少
販管費	122	110	△12	販促、B to B投資
営業損益	△6	△22	△16	営業損失増

8

映像事業の損益状況について少し補足致します。

この第1四半期ではコンパクトカメラの売上減少をミラーレスの販売拡大では補いきれず、売上高、及び売上総利益が減少しています。

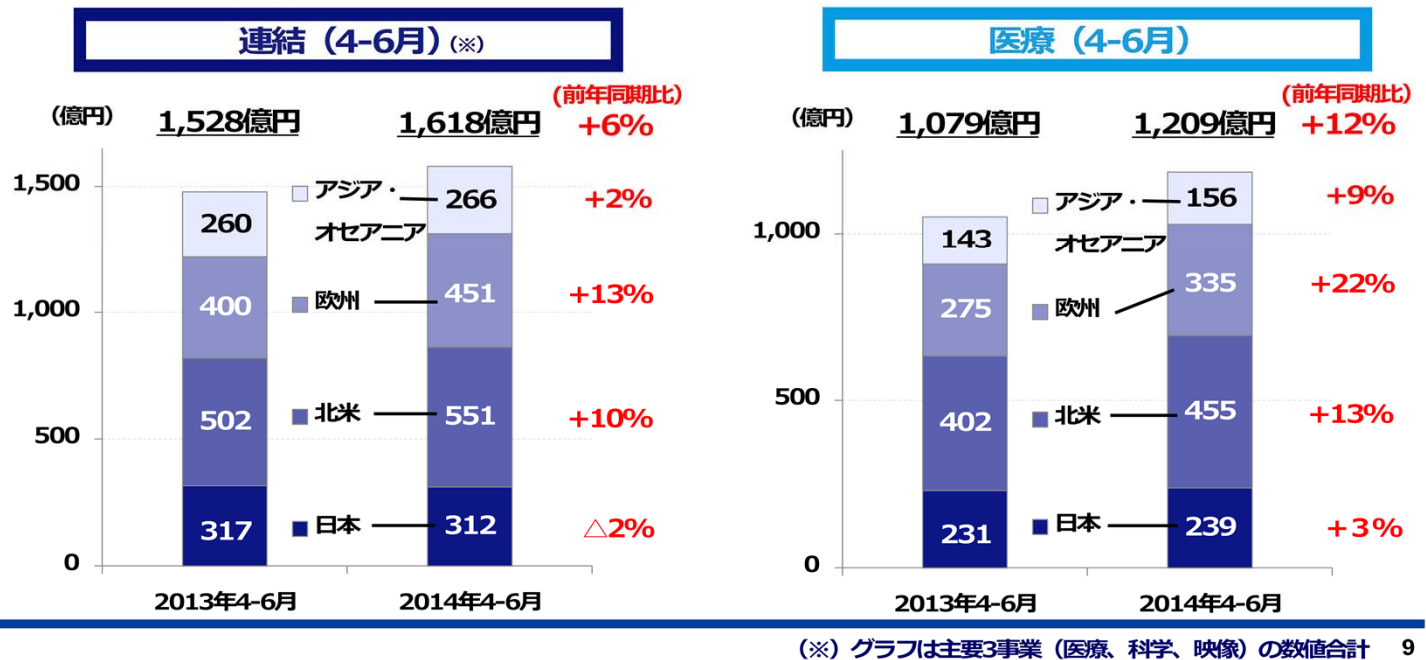
但し、昨年度の売上総利益については、2013年3月末に厳しく評価した在庫の戻り益が一部含まれています。こうした影響を除きますと、実態としての収益性は、全体的な実態として前年から大きな変化はございません。

一方で、販管費は圧縮を進めたものの、戦略的な販促、広告投資等について予定通り計上したことから損失が拡大するという結果となりました。

映像事業は、ミラーレスの強化、BtoB事業の立ち上げなど戦略的に投資が必要なタイミングですが、第2四半期以降は、まず、ミラーレスのシステム製品全体で売上高を伸ばし、利益改善を図りたいと思います。

2015年3月期 第1四半期実績 ⑥地域別売上高

◆ 好調な医療事業が牽引し、日本を除く全地域で増収
 (日本：消費税増税の反動減を受けた映像事業の売上減少)



地域別の状況です。

連結ベースでは、映像事業、科学事業において、消費税増税後の反動減の影響から、日本で約2%の減収となりましたが、海外は全地域で増収でした。

右側のグラフは医療事業ですが、全地域増収となりました。特に、昨年度、低成長であった欧州マーケットに回復の動きが見られること、また、中国が2桁成長に回復し、アジア全体の成長を牽引しています。

2015年3月期 第1四半期実績 ⑦進捗状況（社内計画比）

医療	売上高	消化器内視鏡を中心に日本、欧州、米国等、全ての地域において計画通りに進捗
	営業利益	収益性の高い消化器内視鏡が好調に推移した事に加え、販管費の一部に発生遅れもあり、計画を若干上回る実績
科学 ※	売上高	消費税増税の反動減により日本で売上高が未達となったものの、産業分野を中心とした新製品効果により、全体では計画に沿った進捗
	営業利益	売上高の達成により、計画に沿った進捗
映像	売上高	コンパクトは計画通り。ミラーレスはOM-Dシリーズは好調だったが、PENシリーズが未達、加えて消費税の反動減で想定水準を下回った
	営業利益	ミラーレスの売上高が計画未達となり、想定水準を下回った

（※）「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更 10

こちらは、第1四半期の社内計画に対する進捗状況を纏めたものです。

医療は、全地域において、ほぼ計画通りの売上高を計上しました。営業利益については、主力の消化器内視鏡が好調であったこと、また、販管費の一部発生遅れもあり、計画を上回る実績でした。

科学事業は、日本で消費税の影響が見られましたが、全体として売上高、営業利益共に、ほぼ計画通りでした。

映像事業ですが、こちらも国内は消費税の影響がございました。また、主力のミラーレスでOMDシリーズは好調でしたが、PENシリーズの販売が伸び悩んだことで、売上高は未達となりました。営業利益についても売上の状況を受け、社内計画比未達となっています。

連結貸借対照表 (2014年6月末)

- ◆ 自己資本比率は33.0%、有利子負債も早期弁済も含めて約169億円圧縮
- ◆ ミラーレス拡販に向けた在庫が増加、第2四半期以降の販売によって消化する見込み

(単位：億円)	2014年 3月末	2014年 6月末	増減額		2014年 3月末	2014年 6月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,765 (217)	5,655 (246)	△110 (+29)	流動負債	2,763	2,940	+177
有形固定資産	1,354	1,350	△4	固定負債 (内：社債・長期借入金)	4,199 (3,468)	3,794 (3,103)	△405 (△365)
無形固定資産	1,736	1,670	△65	純資産	3,313	3,340	+27
投資その他資産	1,420	1,399	△21	(自己資本比率)	(32.1%)	(33.0%)	(+0.9pt)
資産合計	10,275	10,075	△200	負債純資産合計	10,275	10,075	△200

有利子負債：3,990億円 (2014年3月末比 △169億円)
 純有利子負債：1,530億円 (2014年3月末比 △107億円)

11

バランスシートの状況です。

この第1四半期も、有利子負債の一部早期弁済を実行し、有利子負債残高は3,990億円となり、4,000億円を下回る水準となりました。

これに加えて、当期純利益を計上したことで、自己資本比率は2014年3月末比0.9ポイント改善し約33%となりました。

また、課題として、デジタルカメラの在庫増加を認識しています。在庫の内、約80%がミラーレスの在庫ですが、これは、後ほどご説明する第2四半期以降の販売施策等で、対応していく予定です。

連結キャッシュフロー計算書 (2014年4月～2014年6月)

(単位：億円)	2014年3月期1Q	2015年3月期1Q	増減
売上高	1,592	1,670	+78
営業利益	82	151	+69
(%)	5.1%	9.0%	+3.9pt
営業CF	115	210	+95
投資CF	△65	△83	△18
財務CF	△937	△170	+767
キャッシュフロー	△887	△43	+844
フリーキャッシュフロー	50	127	+77
現金及び現金同等物期末残高	1,424	2,455	+1,031
減価償却費	87	90	+4
のれん償却額	23	23	△0
設備投資額	79	88	+9

12

キャッシュフローの状況です。

営業キャッシュフローは、好調な医療事業から創出されるキャッシュフローに加え、売上債権等の圧縮を進めたことで、前年同期のほぼ2倍となる210億円を確保しました。

投資キャッシュフローは、主に設備投資に関連する支出により、83億円のマイナスでした。

以上によりフリーキャッシュフローは、127億円のプラスとなりました。

2015年3月期 業績見通し

それでは、2015年3月期通期の業績見通しについてご説明いたします。

2015年3月期 連結業績見通し

- ◆ 5月に公表した上期・年間計画に変更なし
- ◆ 医療事業が牽引する営業利益、及び営業外収支の改善で当期純利益が大幅増益

(単位：億円)	2015年3月期 上期累計	前年同期比	2015年3月期 通期	前年比
売上高	3,600	+8%	7,600	+7%
営業利益 (営業利益率)	350 (9.7%)	+23%	880 (11.6%)	+20%
営業外収支	△100	-	△180	-
経常利益 (経常利益率)	250 (6.9%)	+48%	700 (9.2%)	+38%
当期純利益 (当期純利益率)	130 (3.6%)	-	450 (5.9%)	+230%

14

こちらは、2015年3月期の見通しです。

5月に公表した数値から変更はございません。

売上高は、前期比7%増の7,600億円、営業利益は20%増の880億円、経常利益は38%増の700億円、当期純利益は3.3倍の450億円となる見通しです。

営業外収支が金融費用等の減少を主因に、前期比で大幅に改善する見込みとなっており、経常利益以下の利益改善に大きく寄与しています。

第2四半期以降の為替レートも、1ドル100円、1ユーロ135円に変更ございません。

2015年3月期 セグメント別業績見通し

- ◆ 好調な医療事業を中心として、ほぼ全分野で増益傾向
- ◆ その他事業は、バイオロジクス事業からの撤退により54億円改善の見込み

(単位：億円)		2015年3月期 上期累計	前年同期比	2015年3月期 通期	前年比
医療	売上高	2,600	+13%	5,400	+10%
	営業利益	520	+6%	1,150	+2%
科学 (※)	売上高	480	+9%	1,040	+6%
	営業利益	0	-	45	△8%
映像	売上高	440	△6%	970	+1%
	営業利益	△30	-	△35	-
その他	売上高	80	△39%	190	△28%
	営業利益	0	-	0	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△140	-	△280	-
連結合計	売上高	3,600	+8%	7,600	+7%
	営業利益	350	+23%	880	+20%

(※) 「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更 15

セグメント別の見通しはこちらの通りです。

医療事業は、年間でも過去最高の売上高、営業利益を更新できる見通しです。

科学事業は、増収の見込みですが、戦略変更に伴う、構造改革費用等により、前年並みの利益となる見込みです。

「その他」事業ですが、バイオロジクス事業からの撤退により、営業利益が大きく改善し、ブレークイーブンとなる見通しです。

最後に、映像事業です。上期、年間見通し共に変更はございません。但し、こちらは第1四半期の状況から、第2四半期以降、挽回を図る必要があります。

この点について少し補足します。

2015年3月期 第2四半期以降の映像事業

◆ 成果の見え始めた欧米市場の拡大

- ・ 第1四半期に好調であったOM-Dシリーズを主軸に販売を拡大

◆ 第1四半期低迷した日本・アジア市場のテコ入れ

- ・ 競争力のあるPENシリーズの新製品投入

◆ プロ用レンズラインナップ強化でレンズビジネス拡大を加速

- ・ 2015年3月期 第1四半期 レンズ売上高 前年同期比：約40%増



16

映像事業です。

第2四半期以降は、こちらの3点に注力し改善を図りたいと思います。

まず、1点目は、今期に入り販売体制整備の成果が見え初めた欧米市場で、好調なOM-Dシリーズを主軸に販売拡大を加速します。

2点目は、第1四半期低迷した日本・アジア市場のテコ入れを行います。第1四半期はPENシリーズの新しいラインナップが不足していたことが要因ですので、ここに、競争力のある新製品を投下する予定です。加えて、日本の消費税増税の影響も足下で改善しつつありますので、十分に達成可能だと見ています。

最後3つ目は、さらに高価格帯、付加価値の高いレンズのラインナップを拡充します。E-M1等の高価格のOM-Dシリーズの顧客層は確実に広がっています。この市場にプロ仕様のレンズを下半期に投入し、システム全体での売上規模拡大を図りたいと思います。この第1四半期もレンズの売上高は40%増と成長していますので、これをさらに加速していきます。



最後になりました。

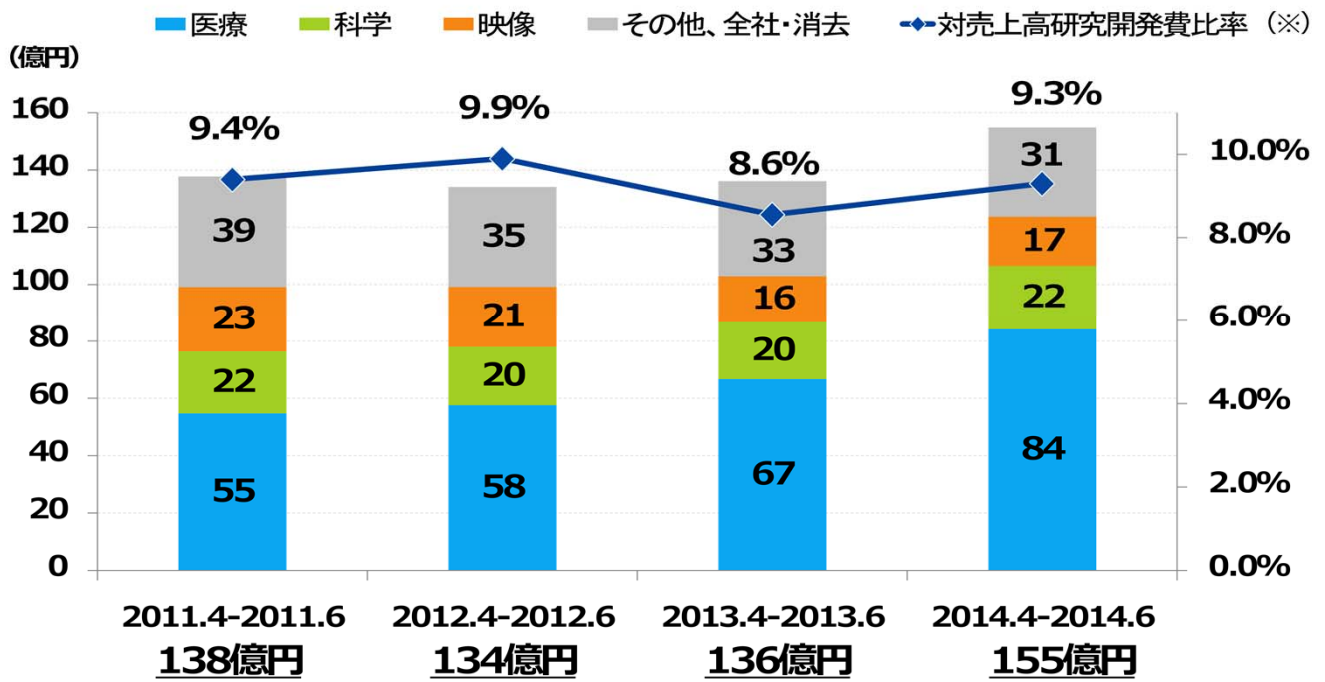
この第1四半期は、映像事業での課題は残っていますが、全体として、医療事業を中心に大変好調なスタートを切ることが出来ました。

今後も、経営陣一同気を緩めることなく、確実に今期の取り組みを実行し、上期、通期の数値見通しを達成したいと思います。

以上

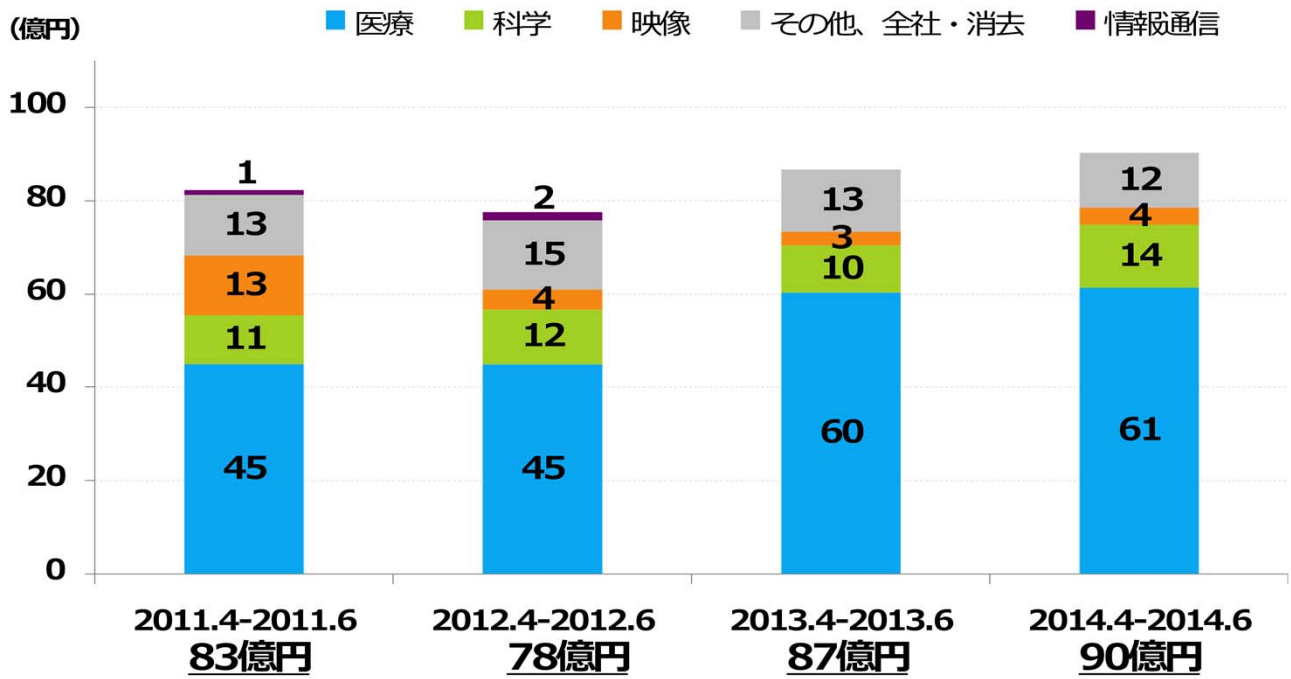
參考資料

【参考資料】 研究開発費

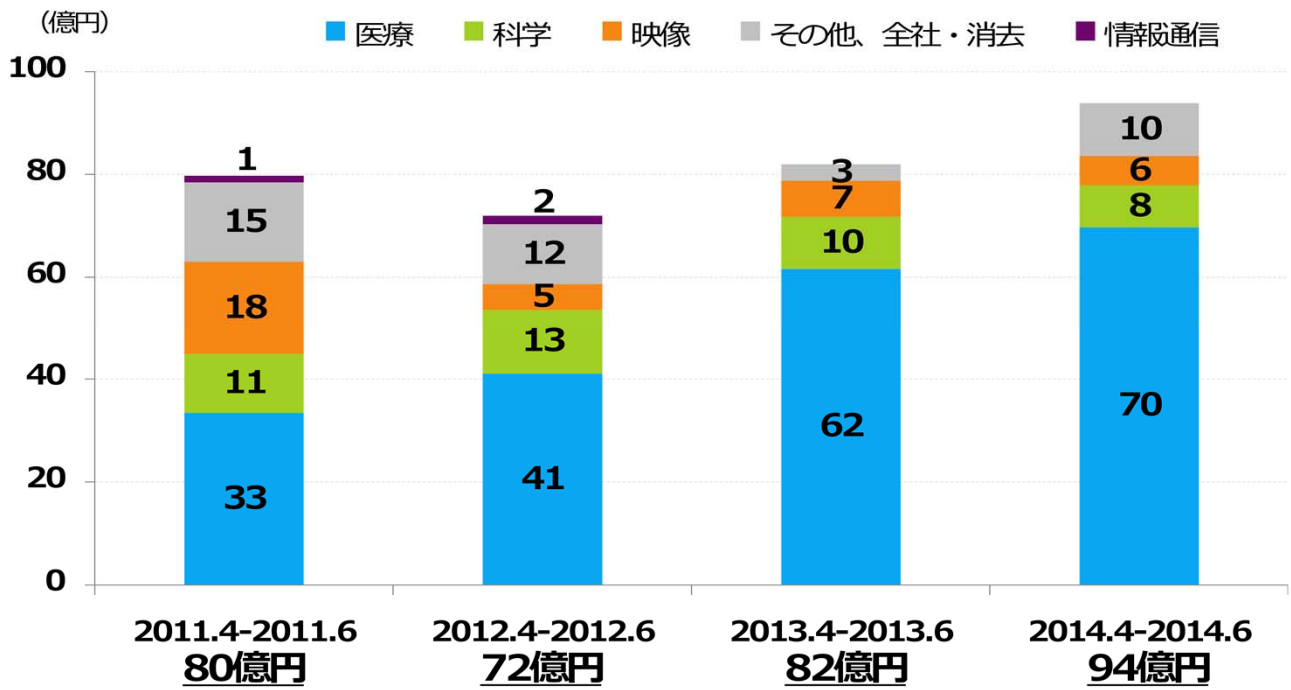


(※) 情報通信事業の売上高を除いた数値

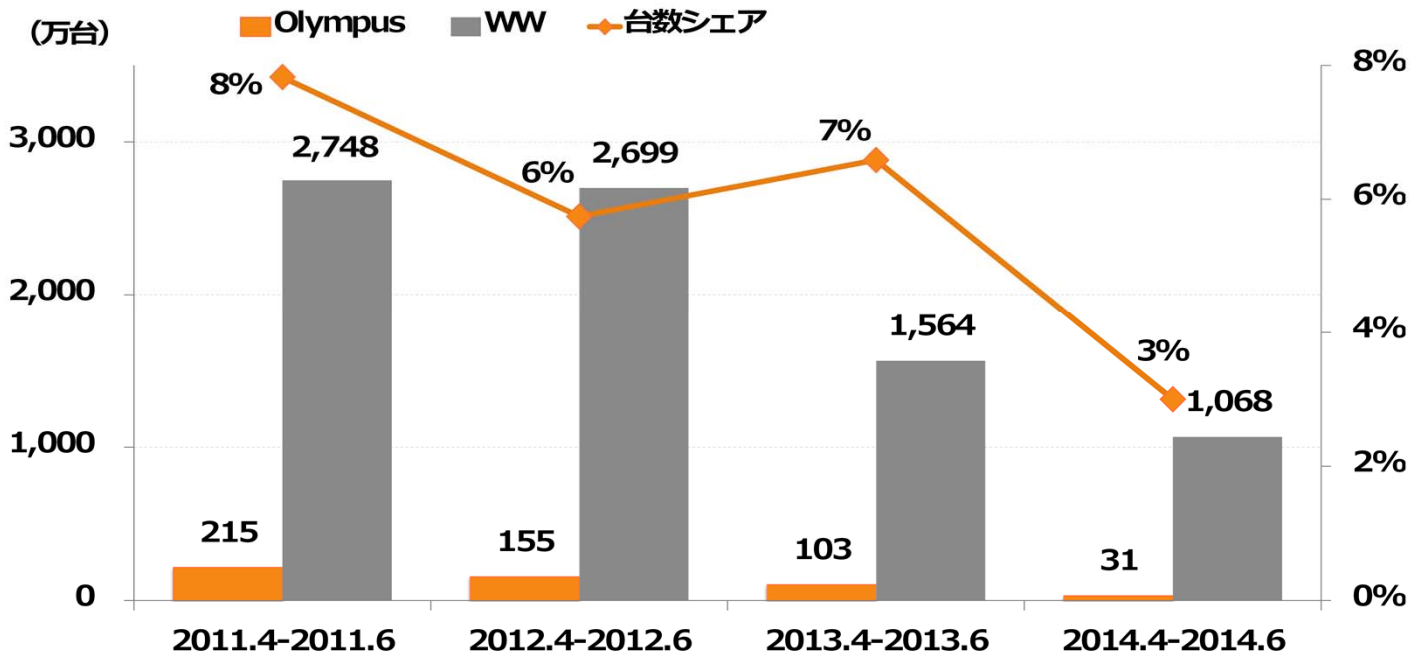
【参考資料】 減価償却費



【参考資料】 設備投資



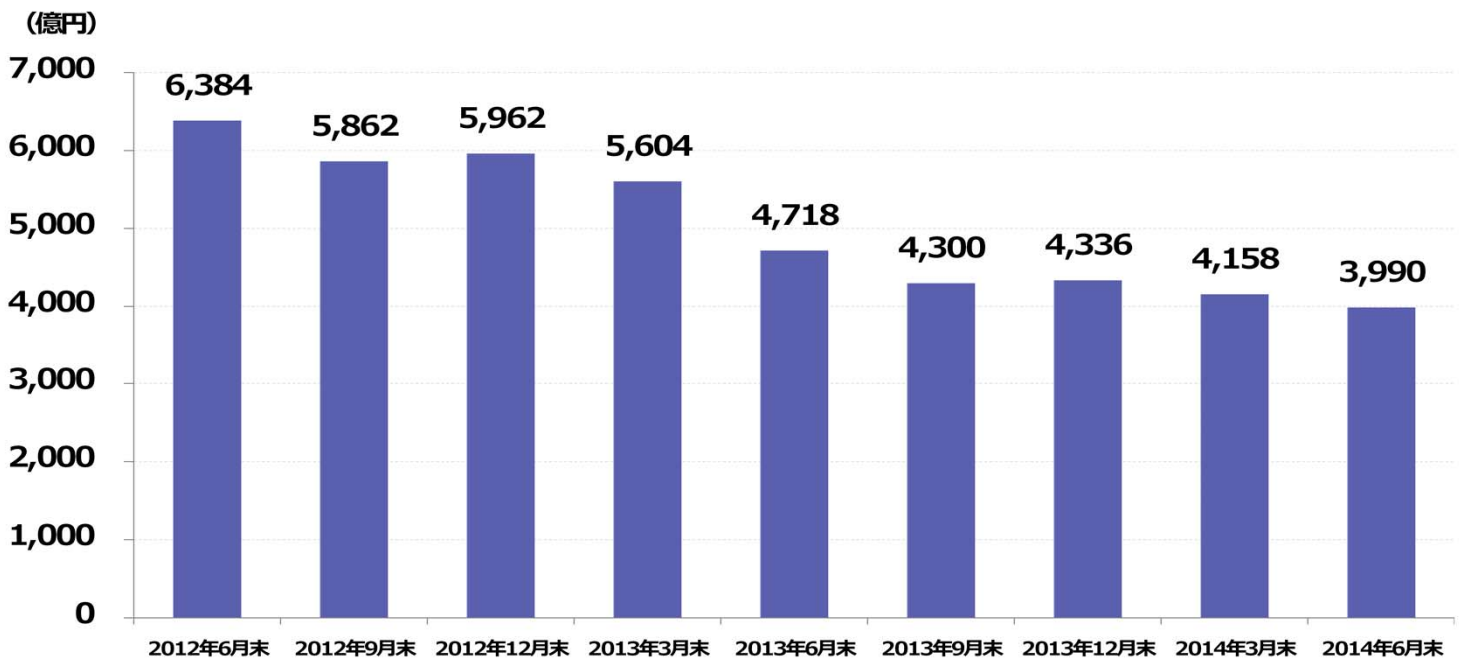
【参考資料】 デジタルカメラ



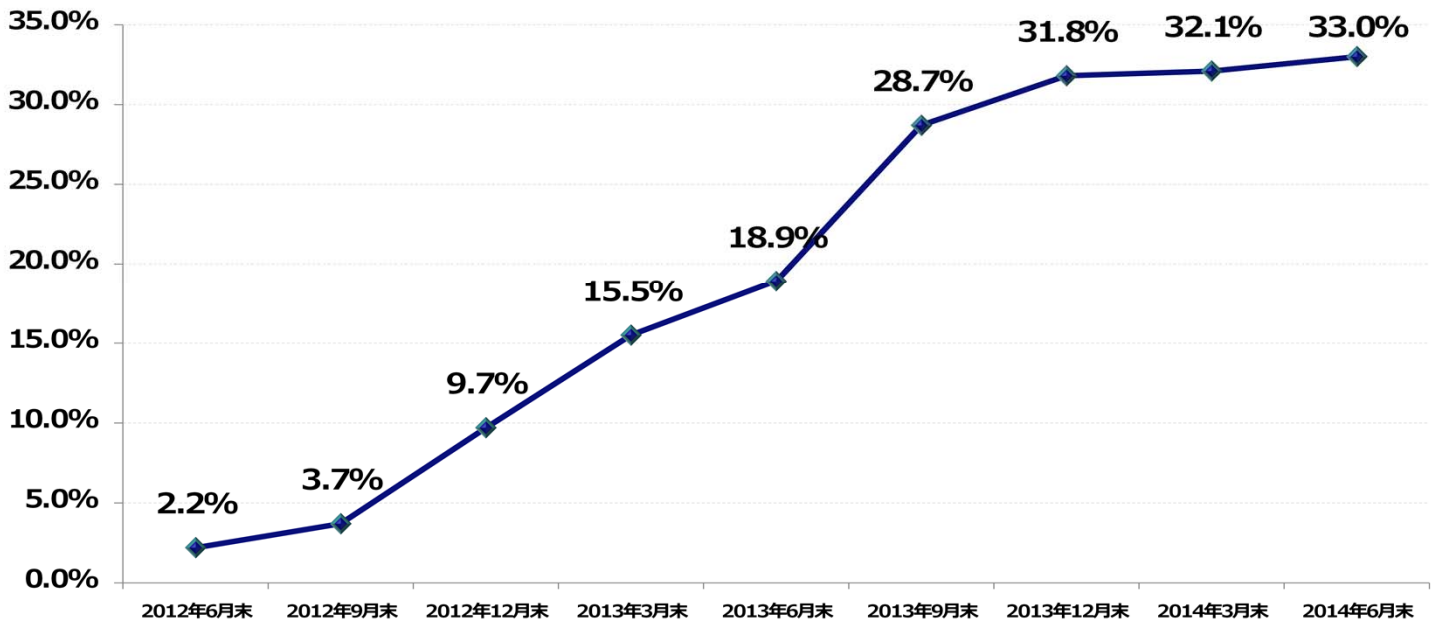
【参考資料】 中期経営計画 セグメント別業績目標

		2015年3月期 (目標値変更無し)	2017年3月期
売上高	医療	5,400億円	6,500億円
	科学	1,040億円	1,350億円
	映像	970億円	1,000億円
	その他	190億円	350億円
	合計	7,600億円	9,200億円
営業利益	医療	1,150億円	1,500億円
	科学	45億円	150億円
	映像	△35億円	90億円
	その他	0億円	10億円
	全社・消去	△280億円	△320億円
	合計	880億円	1,430億円

【参考資料】 有利子負債



【参考資料】 自己資本比率



OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。